

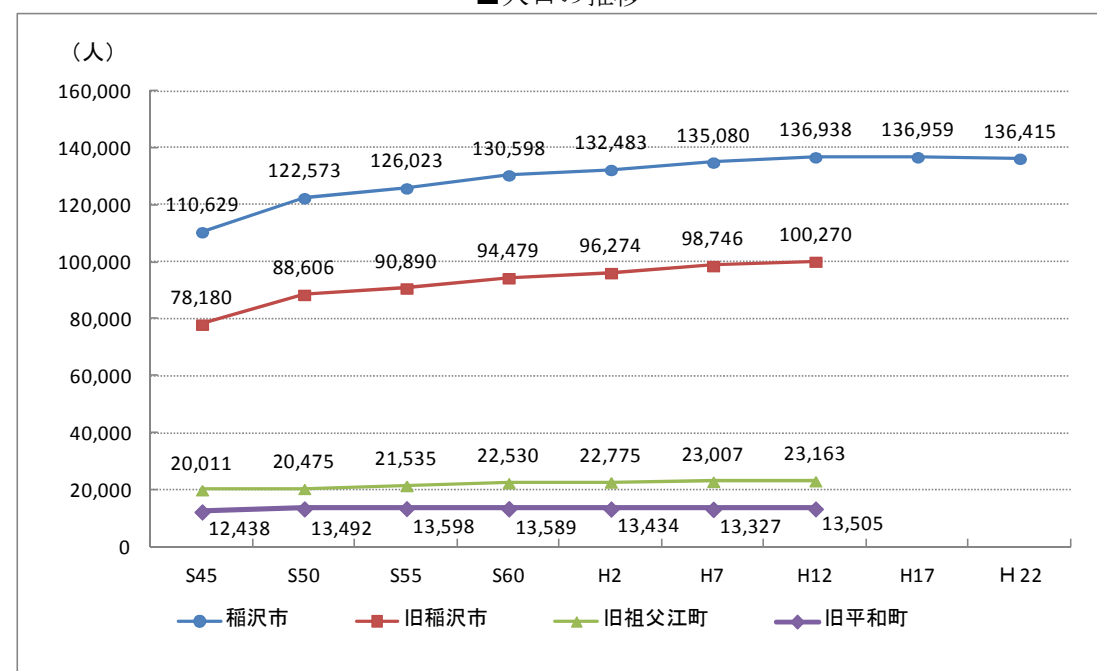
# 稲沢市の人口動向について

## 1. 人口・世帯数の推移

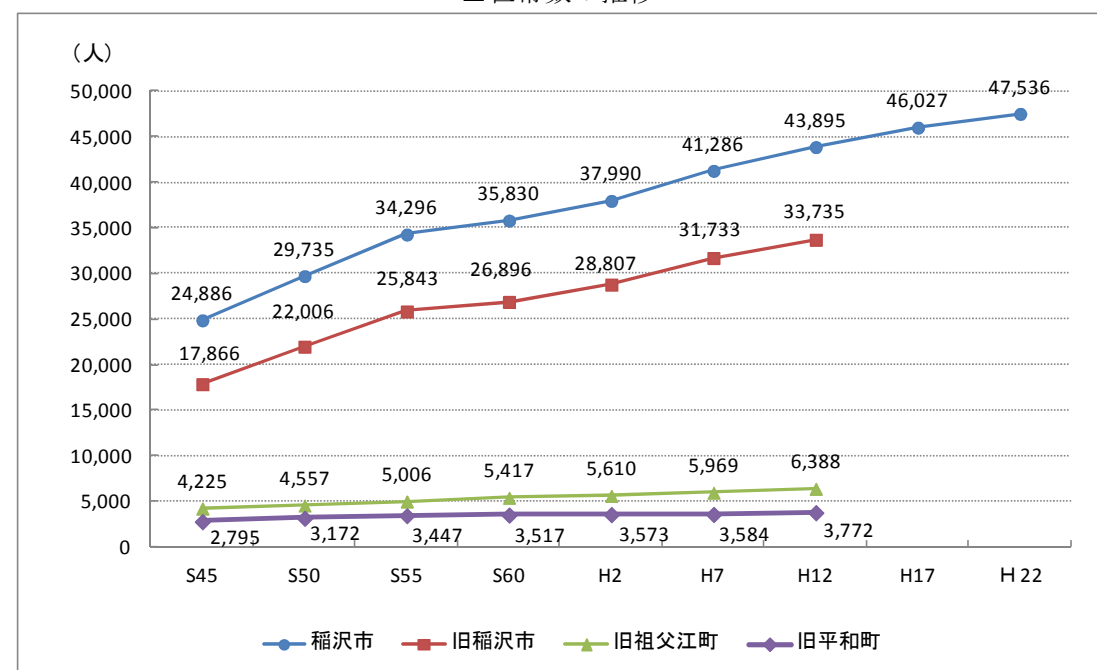
- 国勢調査の結果によると、稲沢市の人口は平成 22 年現在で 13 万 6,415 人。17 年の調査まで増加を続けていたが、22 年に減少に転じている。17 年の市町合併前のデータでは、旧稲沢市が増加傾向であったのに対し、旧祖父江町及び旧平和町は横ばい傾向が続いていた。
- 一方、世帯数では、依然として増加傾向が続いており、22 年現在で 4 万 7,536 世帯となっている。こちらも旧稲沢市での増加傾向が大きく、旧祖父江町及び旧平和町は微増傾向が続いていた。
- 全体の特徴としては、人口が減少に転じたにもかかわらず、世帯数の増加が続いている。このことから、子供世帯が独立して市内に住居を構えるなどの世帯分離が進んでいると考えられる。



■人口の推移



■世帯数の推移



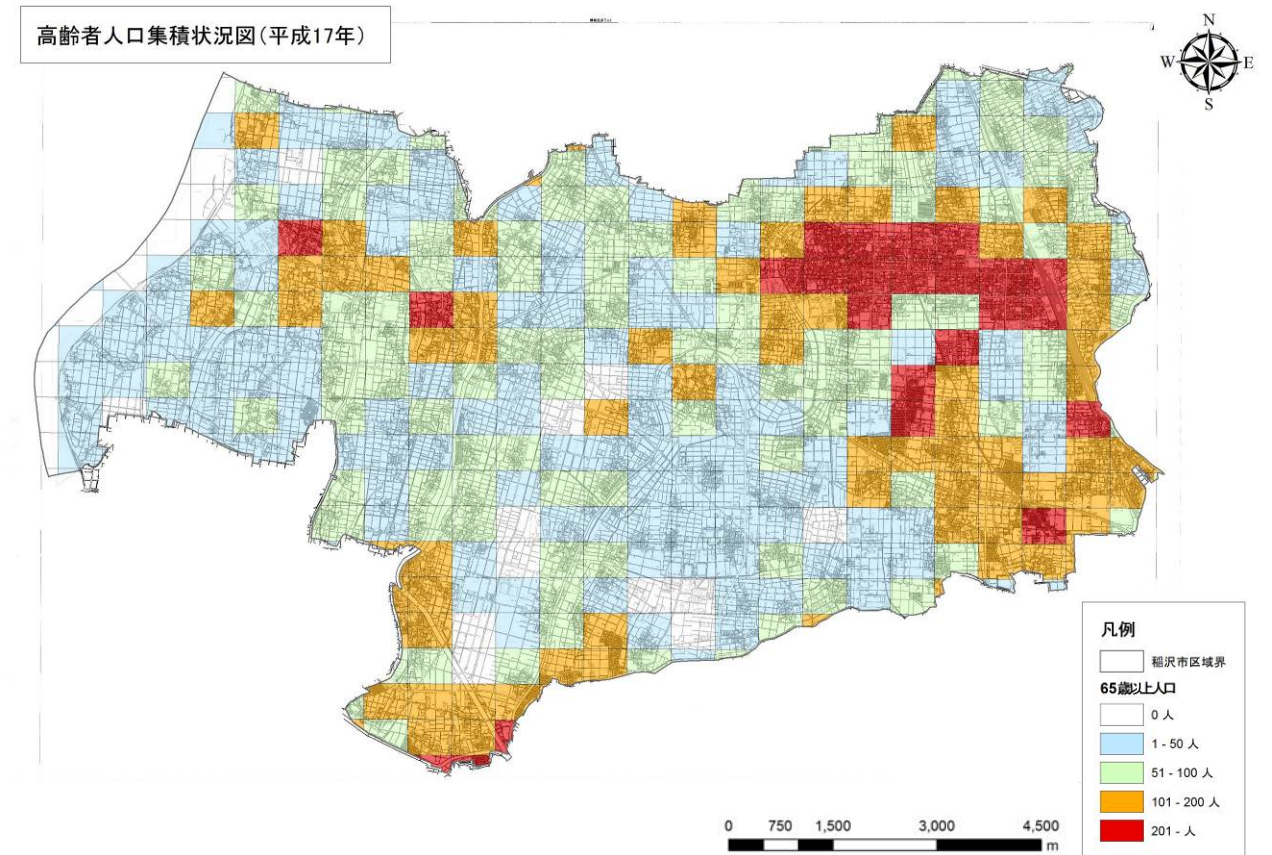
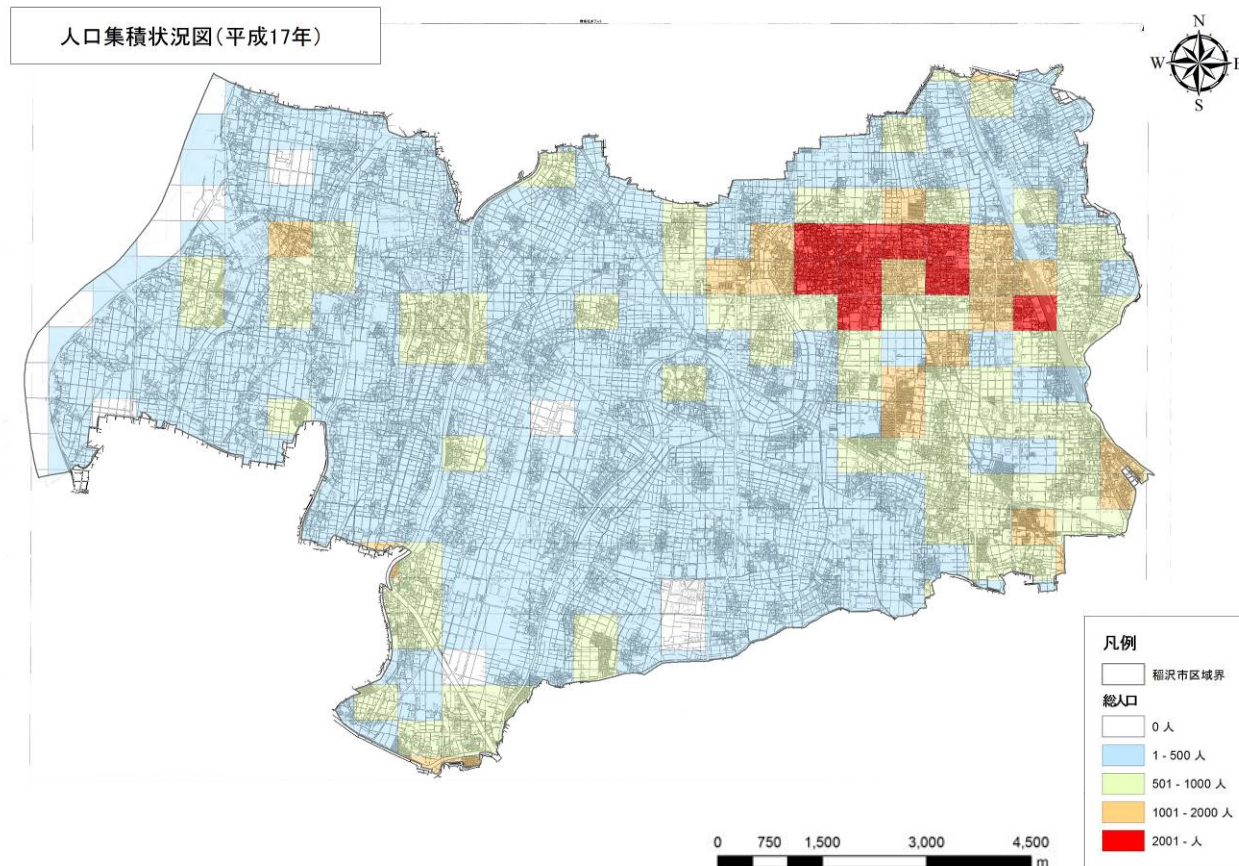
※昭和 45 年～平成 12 年の稲沢市の値は、旧市町の合算値

(資料：国勢調査)

## 2. 人口の集積状況

○平成17年の人口の集積状況を見ると、市域東部の名鉄本線及びJR沿線に人口の集積が多く見られ、特に名鉄国府宮駅周辺やJR稲沢駅周辺の集積が高い。それ以外の地域では、祖父江支所周辺など、点在する集落地において人口の集積が見られる。

○平成17年の高齢者人口（65歳以上の人口）の集積状況を見ると、名鉄国府宮駅やJR稲沢駅周辺、祖父江支所周辺など、全体人口の集積が高い地区に高齢者人口も集積している。さらに、点在する集落地においても高齢者人口の集積が見られることから、市街化調整区域を含めた市域全体で高齢化が進んでいると考えられる。



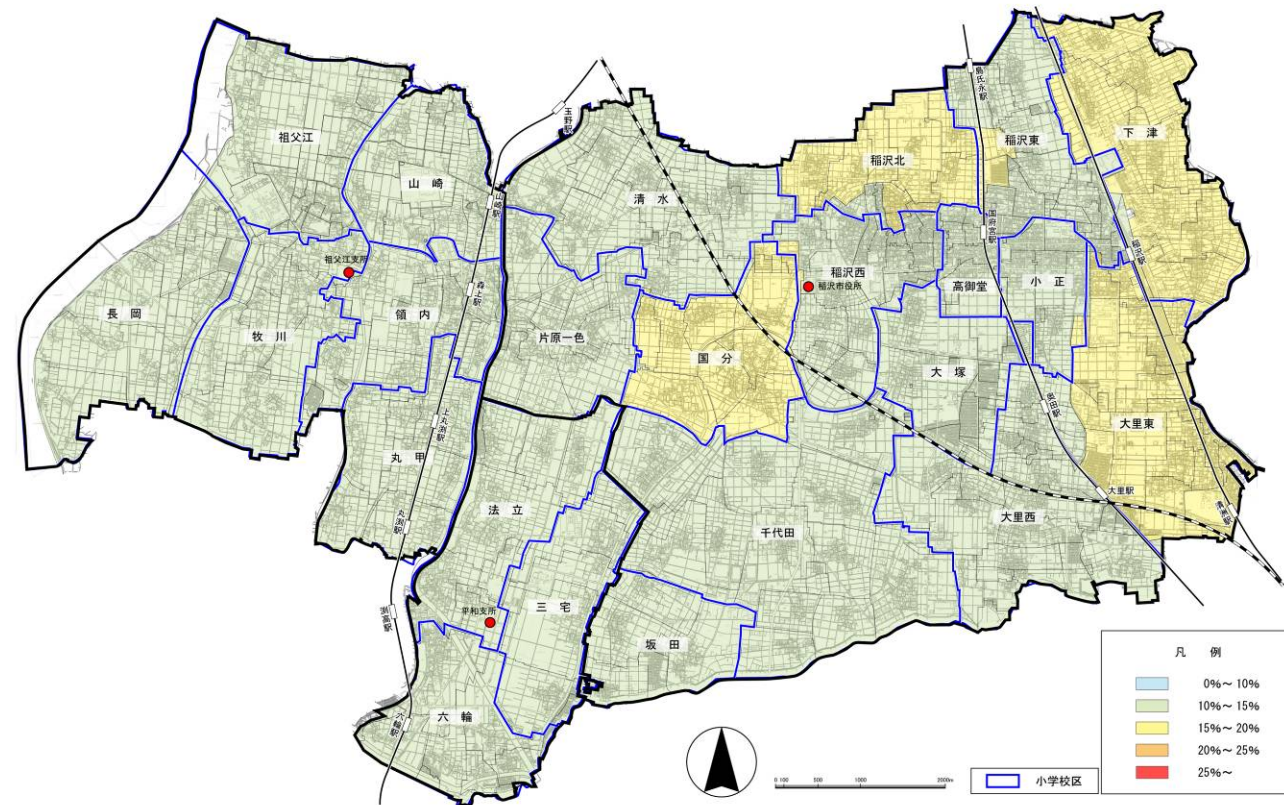


### 3. 年少人口及び高齢者人口の割合

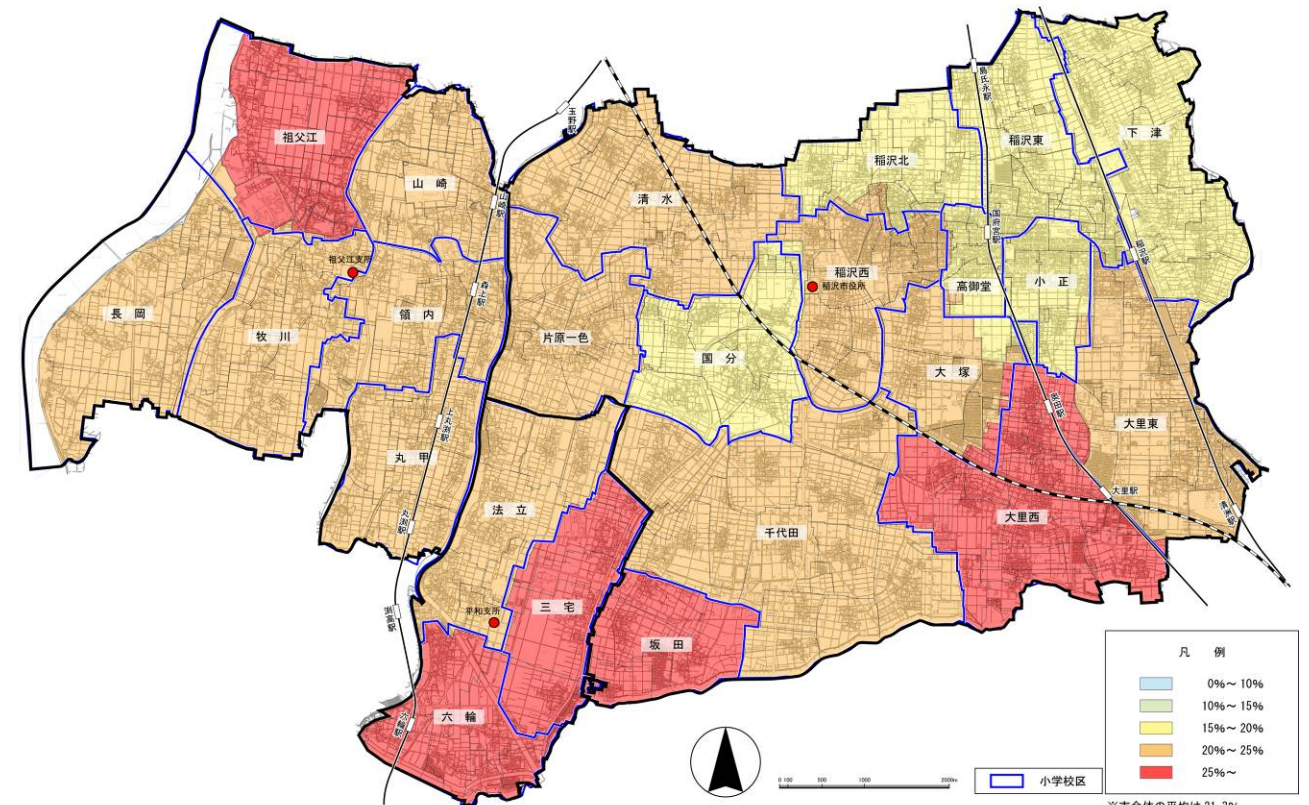
○平成 22 年の小学校区ごとの年少人口（15 歳未満の人口）の割合を見ると、JR 沿線の下津小学校区及び大里東小学校区、名鉄国府宮駅北側の稲沢北小学校区、稲沢市役所西側の国分小学校区において、15%から 20%と比較的高い水準を示している。

○平成 22 年の小学校区ごとの高齢者人口（65 歳以上の人口）の割合を見ると、JR 稲沢駅周辺の下津小学校区、名鉄国府宮駅周辺の稲沢東小学校区、稲沢北小学校区、高御堂小学校区及び小正小学校区、稲沢市役所西側の国分小学校区において、15%から 20%と比較的低い水準を示している。一方、市域南部の大里西小学校区、坂田小学校区、三宅小学校区及び六輪小学校区、市域北西部の祖父江小学校区において、25%以上とかなり高い水準を示している。

小学校区別の年少人口の割合（平成 22 年）



小学校区別の高齢者人口の割合（平成 22 年）

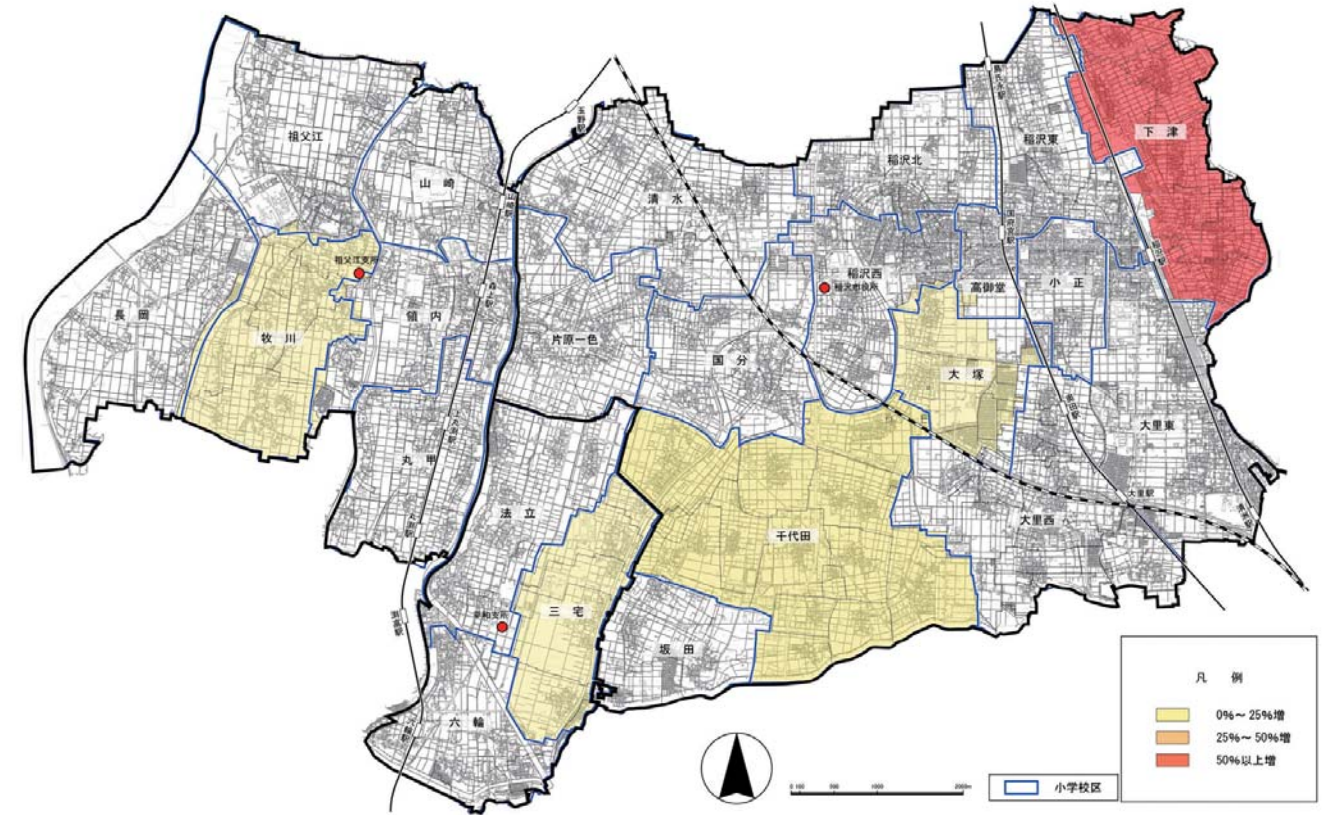




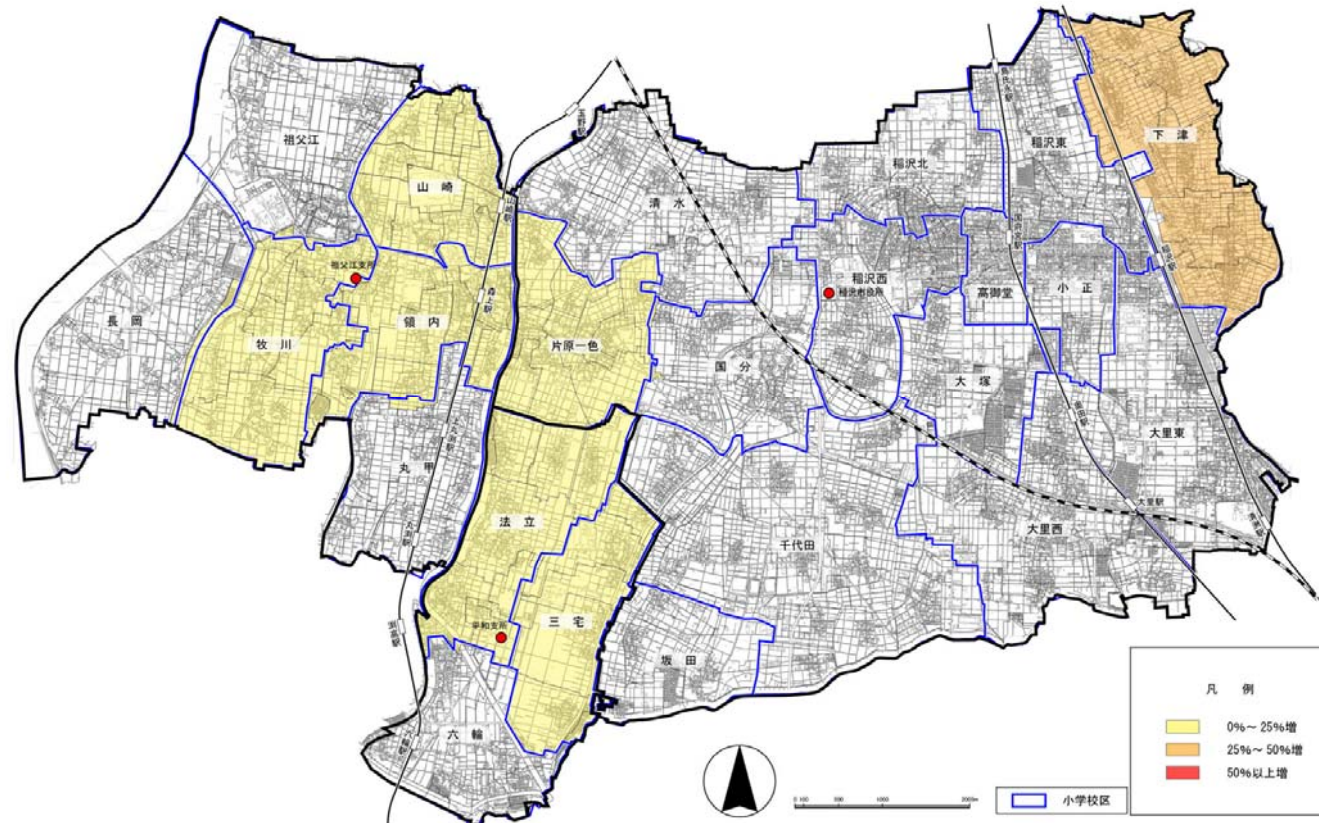
#### 4. 小学校区別の人口の伸び（平成 17 年～22 年）

- 平成 17 年から 22 年の 5 年間の人口の伸びを見ると、市内の約 6 割で人口が減少する中、JR 稲沢駅周辺の下津小学校区は、土地区画整理事業の進展によって 25%から 50%増と突出した伸びを示している。また、名鉄尾西線沿線、祖父江支所及び平和支所周辺の小学校区では微増傾向を示している。
- 年少人口の伸びを見ると、市内のほぼ全域で減少する中、JR 稲沢駅周辺の下津小学校区は 50%以上増と高い伸びを示している。
- 高齢者人口の伸びを見ると、全体人口が減少している地区を含め、すべての小学校区で増加傾向を示している。特に市縁辺部の小学校区においては 25%以上と高い伸びを示している。

小学校区別の年少人口の伸び（平成 17 年～平成 22 年）



小学校区別の人口の伸び（平成 17 年～平成 22 年）



小学校区別の高齢者人口の伸び（平成 17 年～平成 22 年）

